

2020年9月期 決算説明資料

2020年11月

フィンテック グローバル株式会社

(東証マザーズ : 8789)

<http://www.fgi.co.jp/>

2020年9月期 通期業績 事業概要

事業総括	3
連結業績概況	4
四半期連結業績推移	5
セグメント別業績	6
投資銀行事業	8
エンタテインメント・サービス事業	9
販売費及び一般管理費	11
投融資残高の推移	12
(株)ムーミン物語の企業価値に関して	13
受託資産残高の推移	14
連結貸借対照表	15
連結損益計算書	16
連結キャッシュ・フロー計算書	17

業績見通し、株主還元

連結業績予想	19
セグメント別の見通し	20
2021年9月期 投資銀行事業の戦略	21
プライベートエクイティ投資の強化	22
「地方」に対するソリューション提供を継続	23
今後のメツツアの取り組み	24
当期配当、次期配当予想	25

連結経営指標等の推移	26
会社概要	27
免責条項	28

2020年9月期 通期業績 事業概要

コロナ禍により、ムーミンバレーパークが80日間臨時休園 営業再開後も、来園者数はコロナ禍前の水準を下回って推移

2020年3月～6月に、メッツアが臨時休園。

来園者数がコロナ禍前の水準に戻るには複数年かかり、特に1年間は大幅な減少が継続すると想定。

そのような厳しい状況に耐えうるコスト削減による収支均衡策、資金繰り対策等を実行。

徹底した感染拡大防止策を取り、事業を継続。

ムーミン・ライセンス事業は拡大

ムーミンバレーパーク開業や全国巡回しているムーミン展等により、ムーミンへの注目度が高まる。

コロナ禍により大型商業施設の休業などの影響があったものの、新規契約先の増加や商業施設再開により回復基調となり、ライセンス収入は前期比でプラスとなる。

中期経営計画は取り止め コロナ禍により大幅な遅れが生じる

2020年9月期を最終年度とする中期経営計画（2018/5/28公表）は、2020年3月に見直す予定であったが、コロナ禍による影響を見極めるため、見直しを取り止める。当初計画では、2020年9月期はムーミンバレーパーク運営が通年で業績貢献し、投資銀行事業も投資回収により、業績が拡大する計画だった。

コロナ禍により大幅な遅れが生じたが、コロナ収束とともに、トップラインの回復は可能。

(単位：百万円)	当初目標	2020/9期実績	差異	主な要因
売上高	13,200	6,841	△6,358	(コロナ禍の影響) 投資回収の遅れ △10億円 メッツア・ライセンス △38億円 (その他の要因) 子会社売却による減収 △4億円
営業利益	2,700	△922	△3,622	
経常利益	2,600	△1,135	△3,735	

プライベートエクイティ投資の取り組み等により、本業の投資銀行事業は黒字化

事業承継等のニーズに対応したプライベートエクイティ投資案件を組成。投資回収や組成時の業務受託、仲介等による収益を確保。金融機関、会計士等からの案件紹介が増え、次期案件組成への種時きが進む。

連結業績概況

(単位：百万円)

	2019年9月期	2020年9月期	前期比	業績予想 2020/9発表	業績予想比
売上高	9,175	6,841	△ 2,333	6,730	+111
売上総利益	2,944	2,313	△ 631	—	—
営業利益	△1,664	△992	+671	△1,090	+97
経常利益	△1,850	△1,135	+715	△1,230	+94
親会社株主に帰属する当期純利益	△1,586	△1,186	+400	△1,260	+73
償却前営業利益	△935	△264	+671	—	—

・償却前営業利益 = 営業利益 + 原価・販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

売上高

臨時休園と投資回収の遅れにより、減収

- コロナ禍により、ムーミンバレーパークが80日間臨時休園。
- 投資銀行事業では、コロナ禍の影響を受け、投資回収の遅れあり。
- アセットマネジメント等の業務受託売上は、増加。
- 航空機アセットマネジメントは堅調に推移。

営業損益

販管費は1,303百万円減少（28%減）、営業損益が改善

- メツアは来園者数減に対応した運営体制とし、コストの圧縮や借入等による運転資金の確保が進む。
- メツア以外でも、全社的にコストを抑制。

親会社株主に帰属する 当期純損益

ムーミンバレーパークの休園中の固定費等292百万円を特別損失に計上

四半期連結業績推移

(単位：百万円)

	2019/9期					2020/9期					直前四半期 (3Q) 比 増減額 (増減率)	前年度比 増減額 (増減率)
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期		
売上高	1,020	2,257	3,411	2,486	9,175	2,209	2,060	926	1,644	6,841	+717 (+77.4%)	△ 2,333 (△ 25.4%)
売上総利益	455	495	1,324	669	2,944	696	604	368	643	2,313	+274 (+74.4%)	△ 631 (△ 21.4%)
営業利益	△747	△720	160	△356	△1,664	△258	△236	△398	△99	△992	+299 (-)	+671 (-)
経常利益	△804	△762	121	△404	△1,850	△297	△263	△428	△146	△1,135	+282 (-)	+715 (-)
親会社株主に帰属する 当期（四半期）純利益	△599	△645	34	△376	△1,586	△284	△296	△464	△140	△1,186	+323 (-)	+400 (-)
償却前営業利益	△679	△568	416	△104	△935	△5	△23	△307	73	△264	+381 (-)	+671 (-)

・償却前営業利益は、営業利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

セグメント別業績 - 1

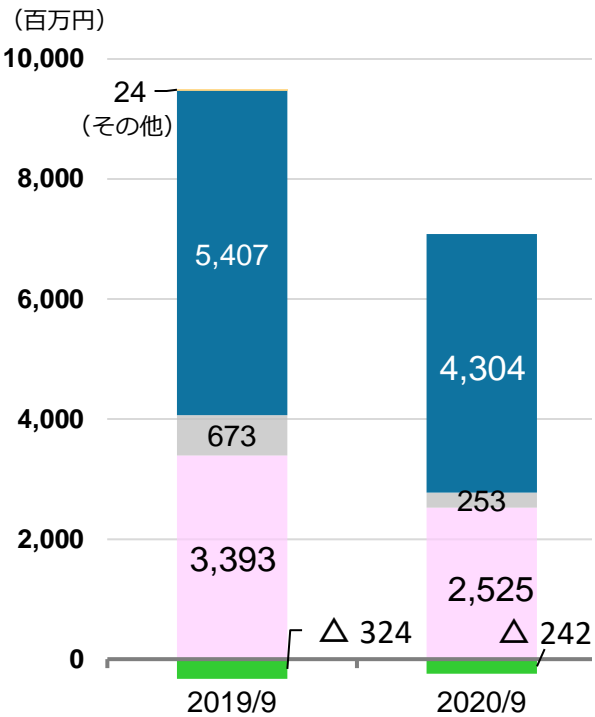
- ・ 本業の投資銀行事業は黒字化。 (単位: 百万円)
- ・ 調整額 (セグメント利益) は△571百万円。各セグメントがこの費用をカバーする利益水準には達せず、営業損失は992百万円。

報告セグメント	科目	2019/9期					2020/9期					直前 四半期 (3Q) 比	前年度比
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期		
投資銀行事業	売上高	405	975	1,230	782	3,393	555	849	497	623	2,525	+125	△868
	売上総利益	249	130	466	293	1,139	316	403	325	437	1,482	+111	+342
	セグメント利益	△128	△276	26	△100	△478	△71	36	26	✓ 118	✓ 109	+91	✓ +588
公共コンサルティング事業	売上高	182	263	148	79	673	64	62	43	83	253	+40	△419
	売上総利益	88	149	78	47	364	33	34	25	57	151	+32	△212
	セグメント利益	10	65	△3	6	79	△7	△5	△12	10	△15	+23	△94
エンタテインメント・サービス事業	売上高	484	1,078	2,122	1,721	5,407	1,647	1,202	✓ 448	✓ 1,006	4,304	+558	✓ △1,102
	売上総利益	131	228	808	376	1,545	376	190	50	180	797	+130	✓ △747
	セグメント利益	△392	△299	346	△78	△423	△18	△142	△253	△101	△515	+151	△92
その他	売上高	7	13	3	-	24	-	-	-	-	-	-	△24
	売上総利益	7	13	3	-	24	-	-	-	-	-	-	△24
	セグメント利益	△4	0	△8	-	△12	-	-	-	-	-	-	+12
調整額 (セグメント間取引 消去又は全社費用)	売上高	△60	△73	△93	△97	△324	△57	△54	△62	△68	△242	△6	+81
	売上総利益	△21	△26	△32	△48	△128	△29	△24	△32	△32	△118	+0	+10
	セグメント利益	△232	△210	△201	△185	△829	△161	△124	△158	△126	△571	+32	✓ +258
連結 P L 計上額	売上高	1,020	2,257	3,411	2,486	9,175	2,209	2,060	926	1,644	6,841	+717	△2,333
	売上総利益	455	495	1,324	669	2,944	696	604	368	643	2,313	+274	△631
	セグメント利益	△747	△720	160	△356	△1,664	△258	△236	△398	△99	△992	+229	+671
関連事項		2018/11 メッツァ ビレッジ 開業	2019/3 ムーミン バレーパーク 開業	ジオプラン・ ナムテック、 アダコテック を連結除外			ムーミンバ レーパーク 16日間 臨時休園	ムーミンバ レーパーク 64日間、 メッツァ ビレッジ 44日間 臨時休園					

- ・ 各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めた売上高です。
- ・ 調整額 (セグメント利益) (2020年9月期通期は△571百万円) には、セグメント間取引消去 (2020年9月期通期は230百万円) 及び報告セグメントに配分していない全社費用 (2020年9月期通期は△802百万円) を含む。全社費用は合理的な配分が難しいなどの理由により報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

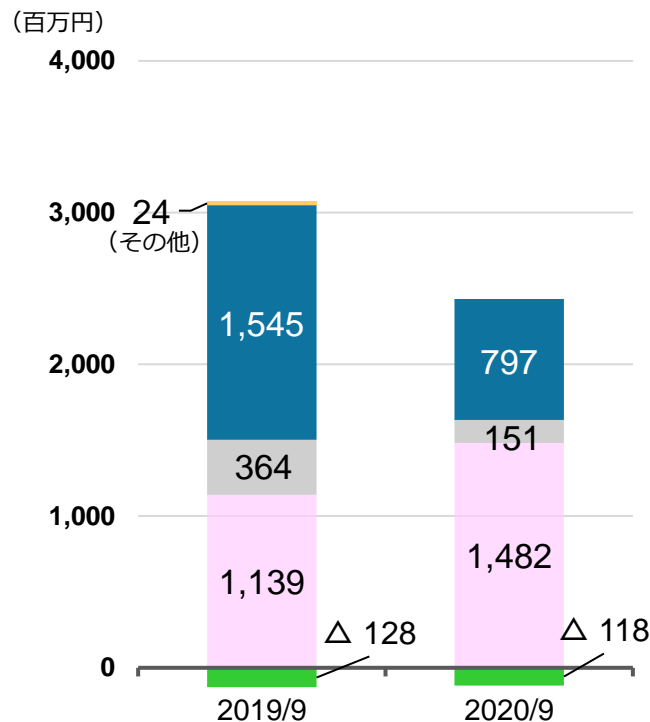
セグメント別業績 - 2

売上高



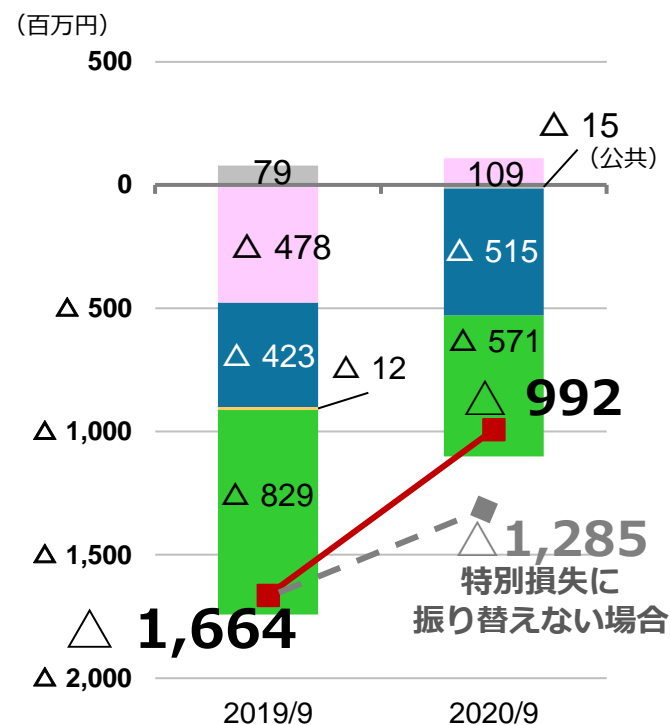
9,175 **6,841**
25.4%減

売上総利益



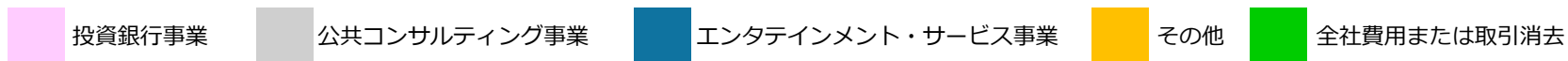
2,944 **2,313**
21.4%減

営業利益



ムーミンバレーパークの臨時休園期間中の固定費等292百万円は、特別損失に計上

(注) セグメント別内訳は、他のセグメントとの取引を消去しない数値を使用。

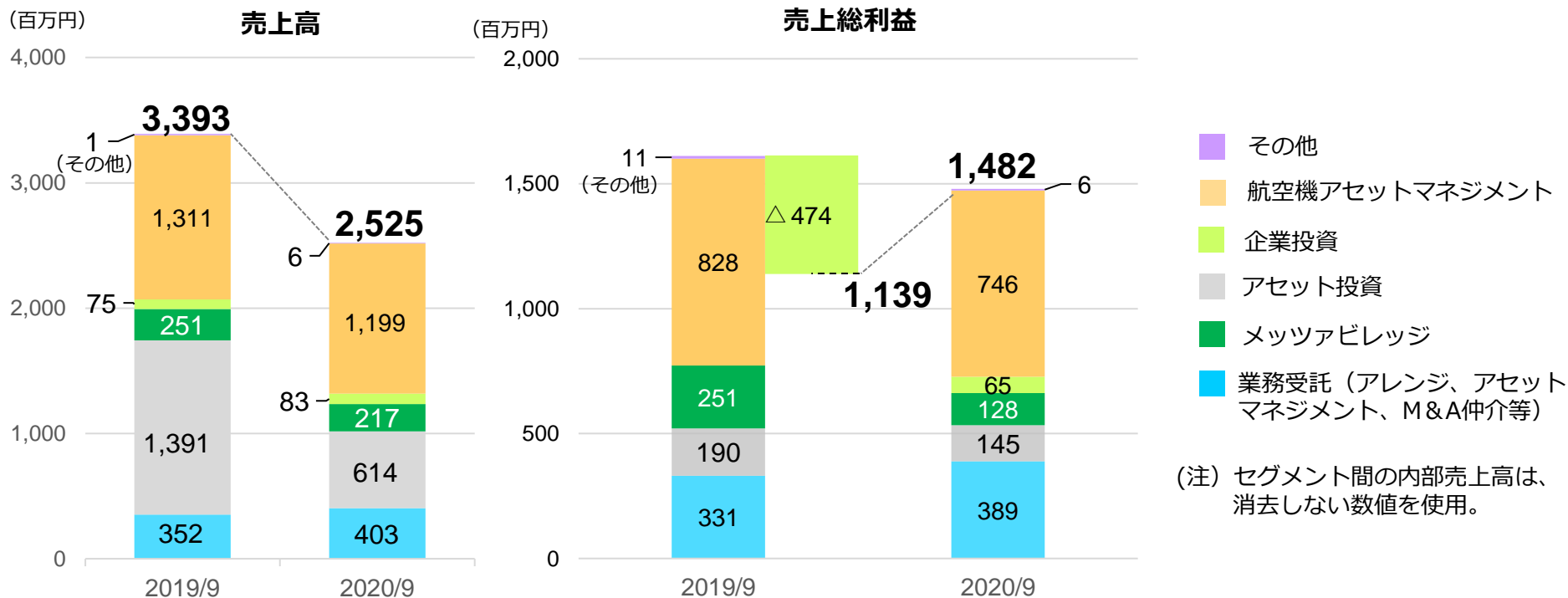


投資銀行事業セグメントー業務別売上高、売上総利益

粗利率の高い業務受託の売上高が増加。

航空機AMが堅調推移。企業投資減損等の影響がなくなり、売上総利益は前期比30.0%増。

- ・ **業務受託** プライベートエクイティ投資に伴う業務受託や仲介等により、増収。
- ・ **アセット投資** 上記の投資が、アセット投資のエグジットとして回収に至ったものの、他の案件の進捗が遅れ、減収。
- ・ **メツァビレッジ** 平日駐車料無料化(2019年11月～)により、減収。
- ・ **企業投資** 2Qに投資回収があったが、その他の投資先企業にIPO延期があり、期初計画の回収には至らず。
- ・ **航空機アセットマネジメント** 非稼働機体管理受託が大幅増加傾向となり、堅調に推移。

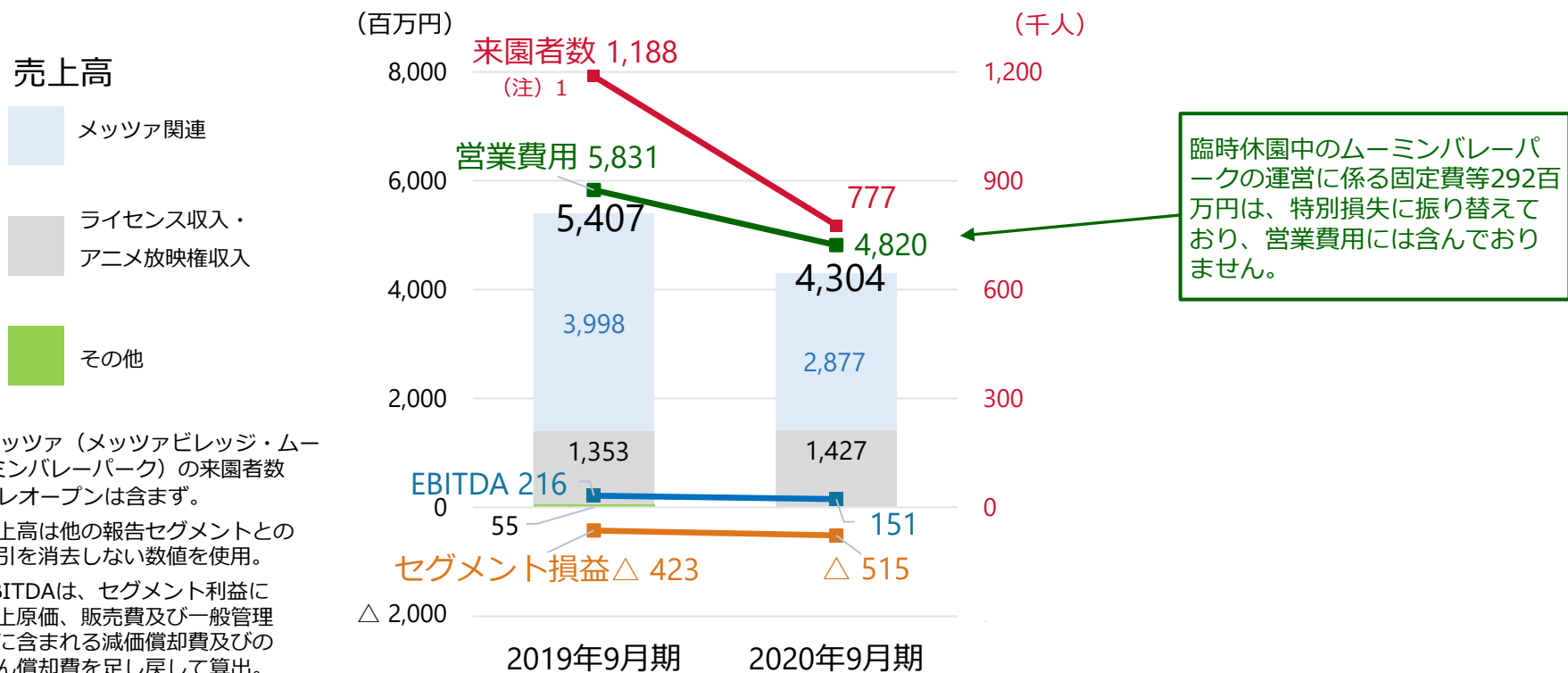


(注) セグメント間の内部売上高は、消去しない数値を使用。

エンタテインメント・サービス事業の業績

ムーミンバレーパークが臨時休園、収支均衡策を取る。ライセンス事業はブランド浸透により増収。

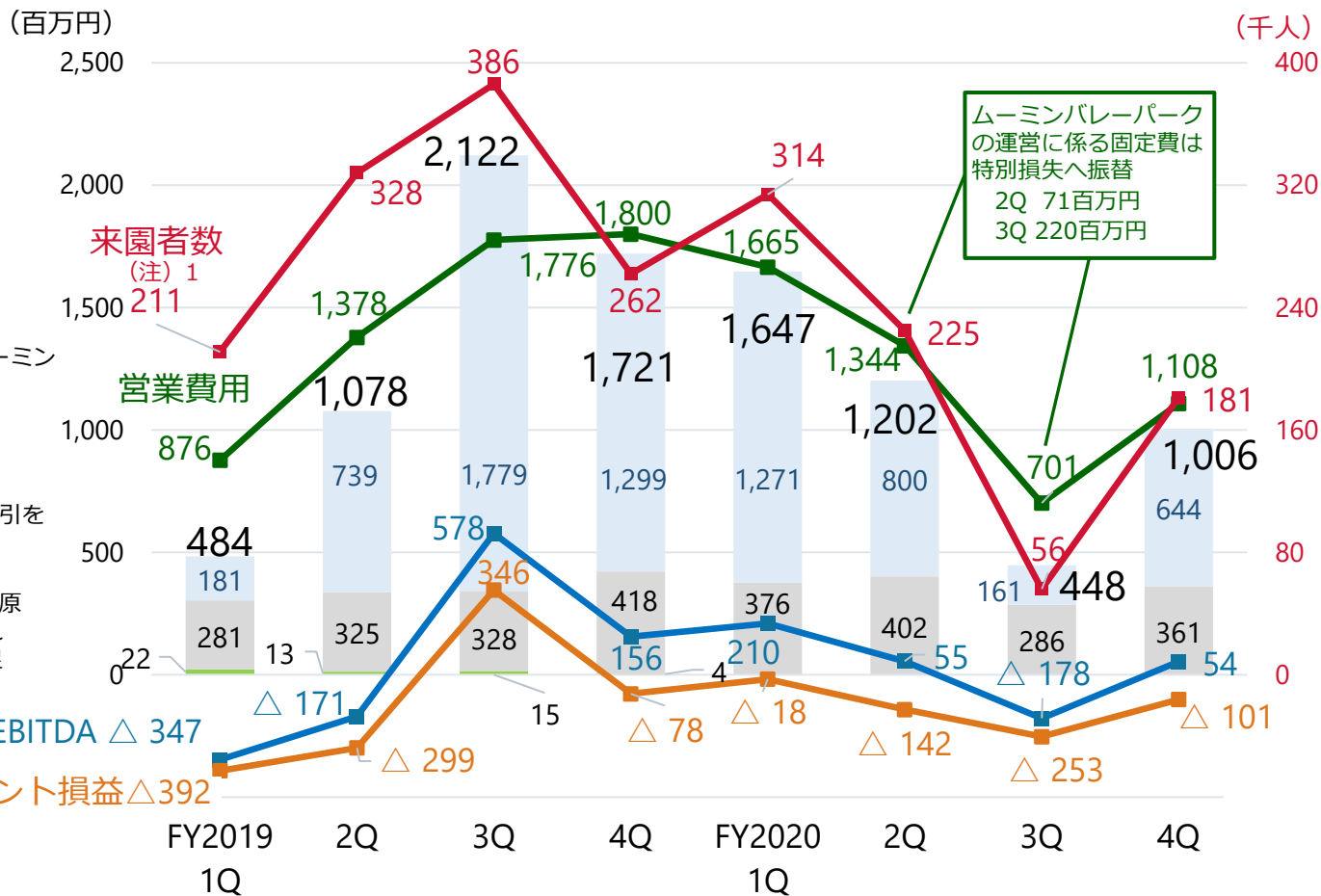
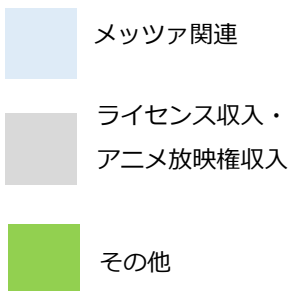
- メッツァ関連
- ・期初からムーミンバレーパークが業績に貢献。
 - ・2019年11月から、平日の駐車場無料化やイベントの充実など顧客満足度を高める施策を推進し来園者数は増加基調に。顧客満足度の向上を背景に、ムーミンバレーパークは2020年3月に料金を改定。
 - ・コロナ禍により3月～6月に80日間臨時休園。3月以降の売上高が大きく減少。大幅な来園者数の減少は少なくとも1年間継続する想定し、2020年3月より収支均衡策をとり、コスト削減を進める。
- ライセンス関連
- ・ムーミンバレーパーク開業、ムーミン展の巡回等で注目度拡大。既存ライセンシーの売上増と新規契約先の獲得により、上半期の売上は順調拡大。
 - ・緊急事態宣言により、ライセンシーの主要販路である大型商業施設等が4月、5月に休業となり、売上が急減。経済活動の再開に伴い、回復の兆しが見えはじめ、9月の売上高は前年同月比プラスに転じる。



- (注)1 メッツァ (メッツァビレッジ・ムーミンバレーパーク) の来園者数プレオープン含まず。
- 2 売上高は他の報告セグメントとの取引を消去しない数値を使用。
- 3 EBITDAは、セグメント利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

エンタテインメント・サービス事業 業績等の推移（四半期）

売上高



(注)1 メツァ（メツァビレッジ・ムーミンバレーパーク）の来園者数
FY2019/1Qの営業日数は52日。
プレオープンは含まず。

2 売上高は他の報告セグメントとの取引を消去しない数値を使用。

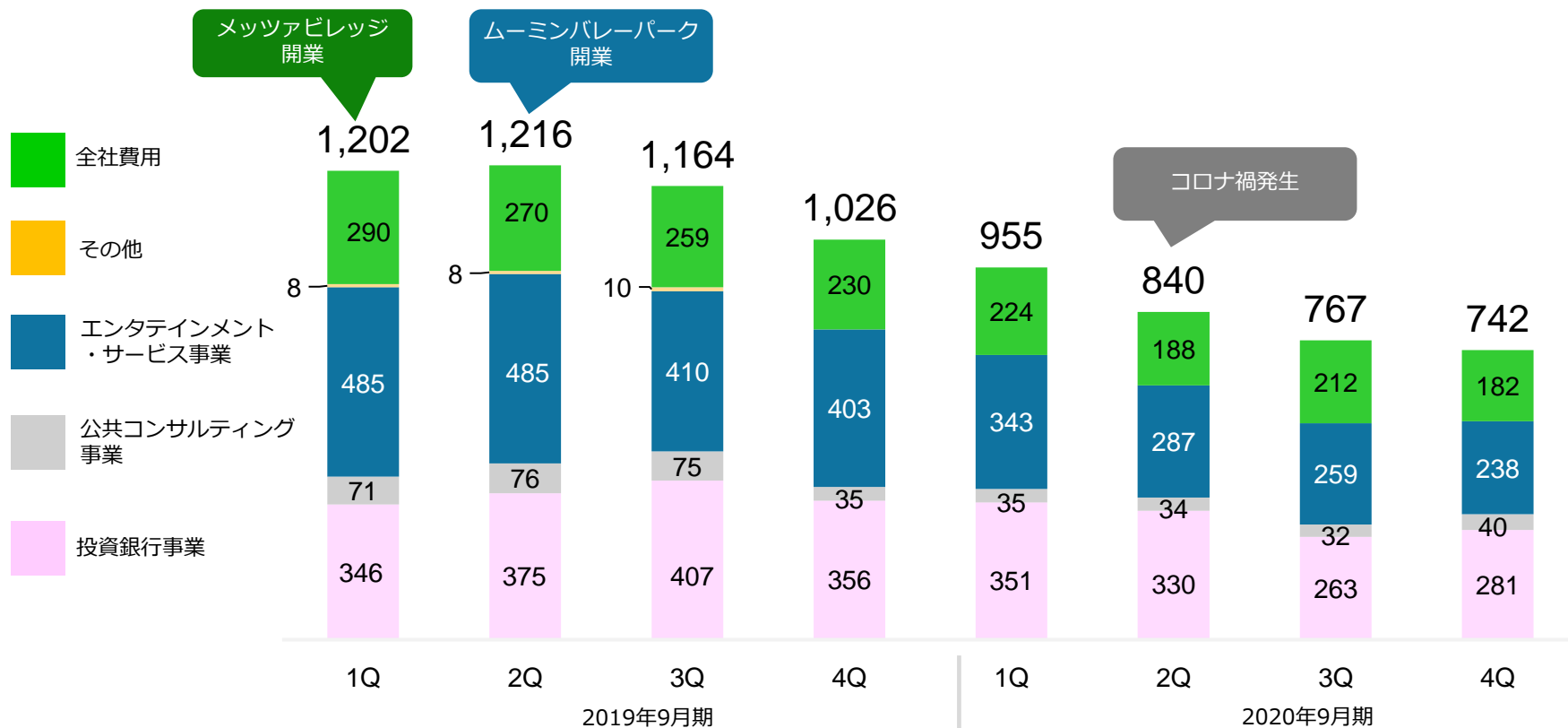
3 EBITDAは、セグメント利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

販売費及び一般管理費

各セグメントでコスト削減が進む

2019/9期 4,609百万円 ⇒ 2020/9期 3,306百万円 (1,303百万円減少)

- ・グループ会社の重複業務を整理、効率化を進め、人件費も見直し、各種コストを圧縮。
投資銀行事業と全社費用合計で200百万円削減する期初計画が順調に進む。前期にあった一時的費用もなくなったこともあり、投資銀行事業と全社費用合計で2,033百万円 (504百万円削減) となる。
- ・エンタテインメント・サービスでは、メッツァ開業準備による先行投資があった2019/9期2Qが販管費のピーク。2020/9期は期初から費用削減を進めていたが、コロナ禍発生により、これを加速させ、人件費や諸経費が減少。



投融資残高の推移 (FGI,FGT合計)

2020年9月期4Q (2020/7~2020/9) の主な変動要因

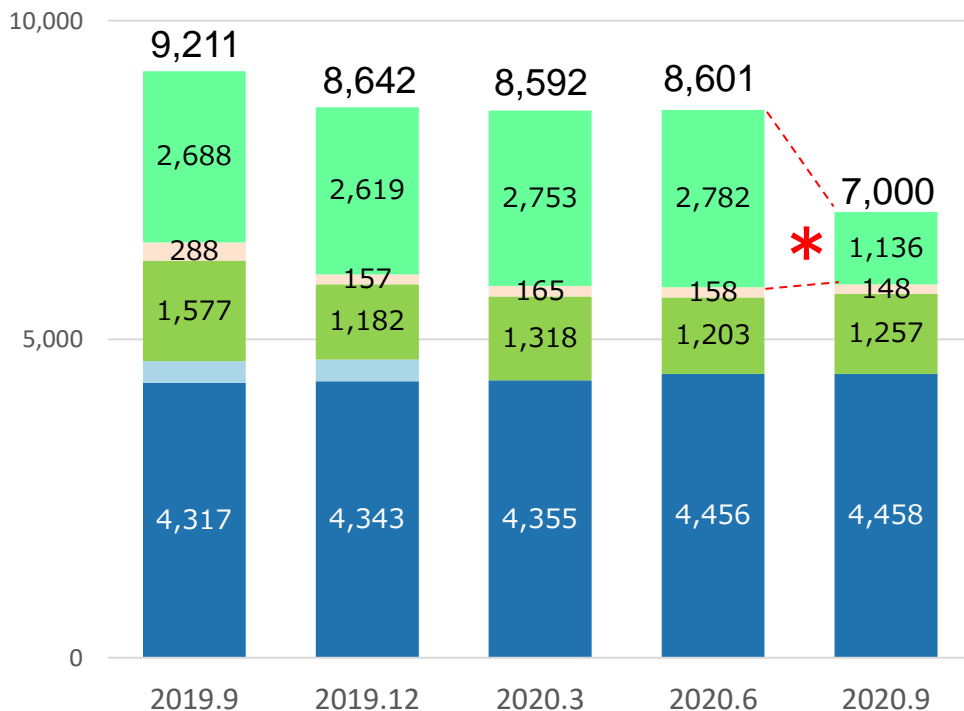
■ プリンシパルインベストメント

・不動産ファンドへの出資を回収。

***** ムーミン物語株式を962百万円、同社へ出資するファンドを513百万円、およびその他コロナ禍の影響があった会社等の株式142百万円を、それぞれ減損処理。事態収束後の回復へ向け価値向上策を検討。
(上記減損は特別損失として計上するものの、ムーミン物語株式等に関しては連結上は消去されるため、連結決算への影響は、関係会社株式評価損41百万円のみ。)

当社(FGI)、フィンテックグローバルトレーディング (FGT) の投融資合計額 (子会社への出資を含む)

(単位: 百万円)



(注) FGI、FGT間の出資・貸付は、含めず。

■ プリンシパルインベストメント
ベンチャーキャピタルファンドへの投資を除く営業投資有価証券、投資有価証券、関係会社株式、関係会社出資金の合計額。

■ ベンチャーキャピタルファンド
FinTech GIMV Fund (FGF)、他2ファンドへの投資

■ 企業融資
営業貸付金、子会社への短期貸付金の合計額。全額引当している債権は含めないが、子会社貸付は全額計上。

■ 不動産等(投資銀行事業)
投資銀行事業における運用不動産、開発用不動産。BSでは仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。

■ 不動産等(メツツア)
メツツアにおける不動産。
メツツアビレッジの不動産は仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。ムーミンバレーパークの土地は、法的には地域SPCに譲渡しているが会計上は当社固定資産に計上しているため、当該金額に含めている。

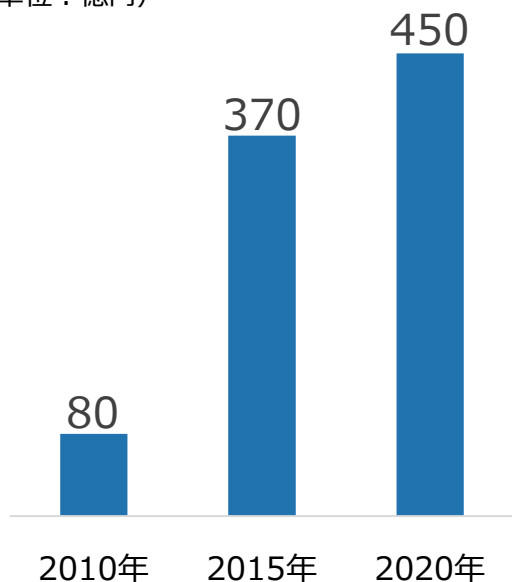
(株)ムーミン物語の企業価値に関して

(株)ムーミン物語の基本戦略は、ムーミンの日本国内市場拡大によるライセンス収入増を通じた企業価値向上。

- ・(株)ムーミン物語のムーミンバレーパークと、子会社(株)ライツ・アンド・ブランズのムーミンのライセンス事業がグループ事業の両輪。
- ・ムーミンの国内市場拡大によるライセンス収入の拡大が基本戦略。
- ・日本国内の市場規模は、2010年の約80億円から、10年間で6倍近い約450億円に成長。
- ・コロナ禍により、ムーミンバレーパークの運営は臨時休園などで大きな損失となる一方で、ライセンス事業は、ムーミンバレーパーク開業やムーミン展等などで注目を集めてブランド価値が向上。
- ・商業施設閉鎖の影響があるも、取扱高は徐々に回復し、2020/9期は増収増益。この傾向は継続していくと考えられる。
- ・日本国内市場の拡大は続いており、ムーミン物語、ライツ・アンド・ブランズの企業価値は今後も向上していく見通し。

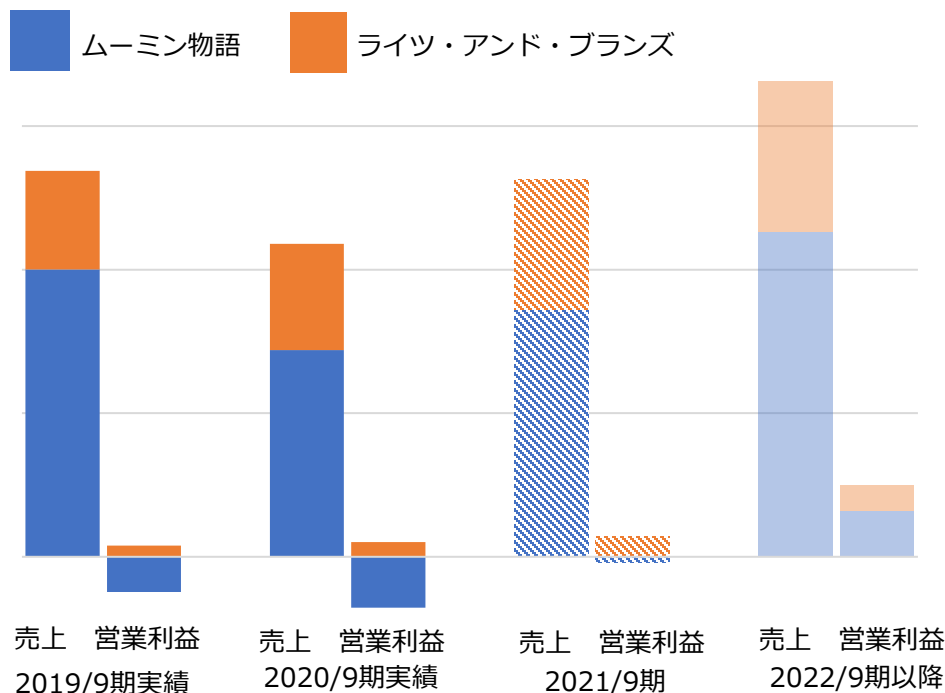
日本国内のムーミンの市場規模（概算）

(単位：億円)



(株)ムーミン物語の連結業績(実績と見通し)

(単位：百万円)



業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

- ・ムーミン物語を親会社として、エンタテインメント・サービス事業の各社を連結。
- ・2021/9期はFGI連結業績予想に基づく。2022/9期以降は業績見通しのイメージ。

受託資産残高の推移

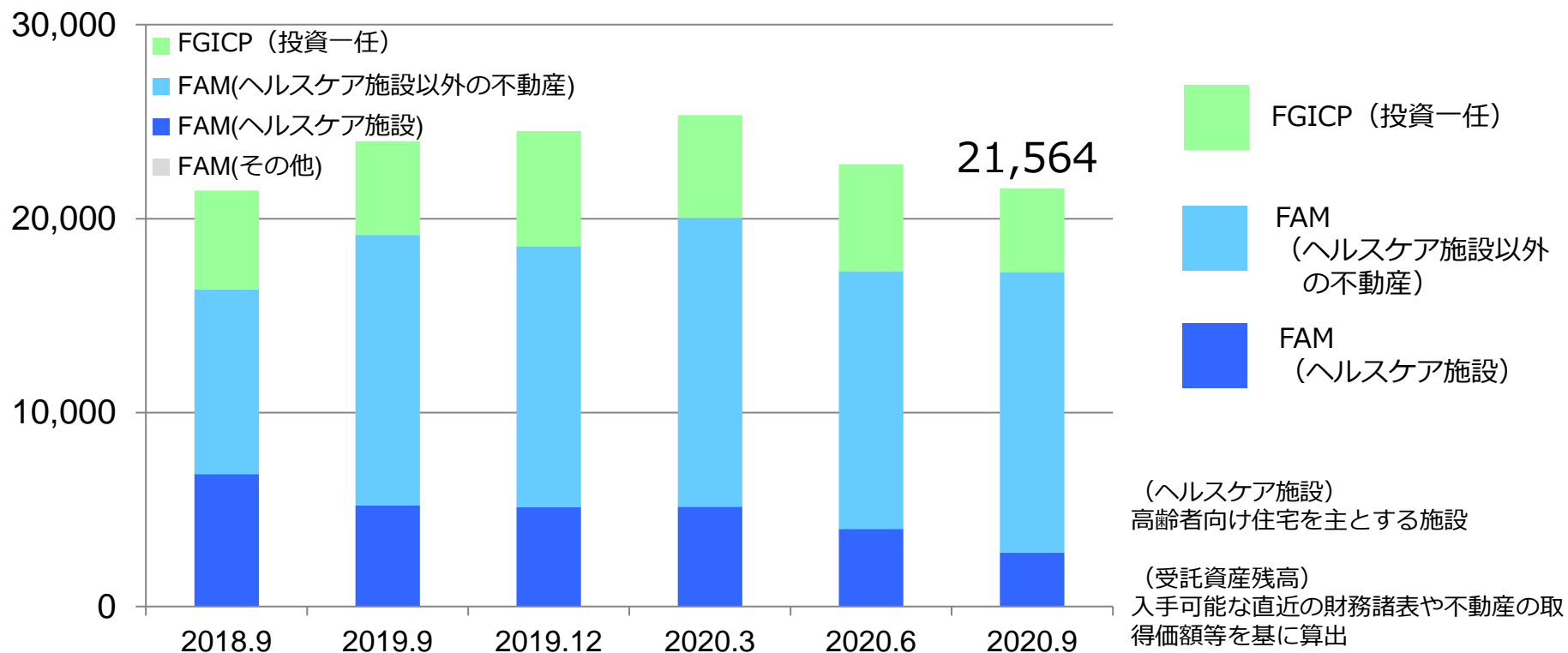
フィンテックアセットマネジメント (FAM)
FGIキャピタル・パートナーズ (FGICP)

2020年9月期4Q (2020/7~2020/9) の主な変動要因

ヘルスケア施設への投資案件2件がエグジット。

その他の不動産受託は、新規受託により漸増。

(百万円)



連結貸借対照表

資産の部

	19年9月期	20年9月期	増減
流動資産	10,438,589	8,803,255	△ 1,635,333
現金及び預金	2,533,187	2,162,069	△ 371,118
受取手形・売掛金	727,499	564,724	△ 162,774
1 営業投資有価証券	1,359,941	1,128,045	△ 231,895
営業貸付金	548,625	514,798	△ 33,826
2 販売用不動産	4,211,988	3,999,865	△ 212,122
商品	208,577	257,591	49,013
3 その他	948,410	272,878	△ 675,532
貸倒引当金	△ 99,641	△ 96,718	2,923
固定資産	8,586,424	7,780,293	△ 806,131
4 有形固定資産	7,283,853	6,705,906	△ 577,946
無形固定資産	724,929	600,756	△ 124,173
投資その他の資産	577,641	473,630	△ 104,011
資産合計	19,025,014	16,583,548	△ 2,441,465

1 成長企業2社への新規投資を実行したが、ベンチャーキャピタルファンド (FGF)の投資先である創業関連会社のエグジットによる分配を受けたことや、子会社SPCの不動産信託受益権売却により減少。

2 アセット投資（不動産開発案件）のエグジットにより減少。

3 消費税の還付により、未収消費税等が減少。

4 ムーミンバレーパークにおいて、コンテンツ充実のための投資を実施したものの、建物、内外装等の減価償却により減少。

5 アセット投資（不動産開発案件）がエグジットしたことに伴う借入金返済により減少。

6 地域SPCが金融機関借入を一部返済するも、ムーミン物語が運転資金を外部借入して増加。

負債の部

(単位：千円)

	19年9月期	20年9月期	増減
流動負債	3,010,093	2,333,428	△ 676,664
支払手形・買掛金	213,256	109,597	△ 103,659
5 短期借入金	373,904	69,701	△ 304,203
1年内返済予定の長期借入金	752,968	615,111	△ 137,857
リース債務	215,881	222,578	6,696
未払法人税等	98,999	97,250	△ 1,749
賞与引当金	157,244	130,666	△ 26,577
その他	1,197,838	1,088,523	△ 109,314
固定負債	7,141,750	6,945,738	△ 196,012
6 長期借入金	6,086,260	6,125,744	39,483
リース債務	807,524	581,872	△ 225,651
繰延税金負債	113,189	96,324	△ 16,864
退職給付に係る負債	94,633	108,259	13,626
その他	40,143	33,536	△ 6,606
負債合計	10,151,843	9,279,166	△ 872,677

純資産の部

株主資本	7,480,064	6,294,416	△ 1,185,647
資本金	6,461,911	6,462,062	151
資本剰余金	5,015,924	5,016,132	208
利益剰余金	△ 3,997,770	△ 5,183,778	△ 1,186,007
その他の包括利益累計額	△ 33,493	△ 36,213	△ 2,720
新株予約権	65,837	64,045	△ 1,791
非支配株主持分	1,360,762	982,133	△ 378,628
純資産合計	8,873,170	7,304,381	△ 1,568,788
負債純資産合計	19,025,014	16,583,548	△ 2,441,465

連結損益計算書

(単位：千円)

	2019年9月期	売上比	2020年9月期	売上比	増減額	増減率
売上高	9,175,148	100.0%	6,841,351	100.0%	△ 2,333,796	△ 25.4%
売上原価	6,230,430	67.9%	4,528,162	66.2%	△ 1,702,268	△ 27.3%
売上総利益	2,944,717	32.1%	2,313,189	33.8%	△ 631,527	△ 21.4%
販売費及び一般管理費	4,609,288	50.2%	3,306,151	48.3%	△ 1,303,136	△ 28.3%
営業損失 (△)	△ 1,664,571	△ 18.1%	△ 992,962	△ 14.5%	671,608	—
営業外収益	11,896	0.1%	38,487	0.6%	26,591	223.5%
営業外費用	198,009	2.2%	180,933	2.6%	△ 17,075	△ 8.6%
経常損失 (△)	△ 1,850,684	△ 20.2%	△ 1,135,408	△ 16.6%	715,275	—
特別利益	203,367	2.2%	88,587	1.3%	△ 114,779	△ 56.4%
特別損失	20,386	0.2%	397,255	5.8%	376,868	1,848.6%
税金等調整前当期純損失 (△)	△ 1,667,703	△ 18.2%	△ 1,444,076	△ 21.1%	223,627	—
法人税等合計	63,865	0.7%	69,914	1.0%	6,049	9.5%
当期純損失 (△)	△ 1,731,569	△ 18.9%	△ 1,513,990	△ 22.1%	217,578	—
非支配株主に帰属する当期純損失 (△)	△ 144,897	△ 1.6%	△ 327,983	△ 4.8%	△ 183,085	—
親会社株主に帰属する当期純損失 (△)	△ 1,586,671	△ 17.3%	△ 1,186,007	△ 17.3%	400,663	—

1 前期の第2四半期の2019年3月16日に開業したムーミンバレーパーク運営による収益費用を期初から取り込んだものの、新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休園や、子会社減少により、売上高、売上原価ともに減少。

2 人件費など各種コストを圧縮。メッツァ開業準備費用の負担、その他の一時的費用がなくなる。前期の第4四半期の連結子会社減少もあり、前期比で28.3%減少。

3 メッツァ臨時休園に伴い受給した雇用調整助成金82百万円を計上。

4 ムーミンバレーパークの臨時休園期間中の固定費（人件費、減価償却費等）等を、臨時休園による損失292百万円として計上。また、主にコロナ禍の影響を受けた非連結子会社の株式について、関係会社株式評価損41百万円を計上

5 主に、ムーミン物語の純損失が非支配株主に按分されたことにより増加。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2019年9月期	2020年9月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,604	680	+3,284
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,543	△282	+4,260
(フリー・キャッシュ・フロー)	△7,148	397	+7,545
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,710	△767	△6,477

メツツア開発が一段落し、フリー・キャッシュ・フローはプラスに転じる。

営業CF

メツツアビレヅジ開発の支払が減少する一方で、アセット投資の回収があり、たな卸資産の増減額が減少。

	2019年9月期	2020年9月期
税金等調整前当期純利益	△1,667	△1,444
減価償却費	608	805
営業投資有価証券の増減額 (△は増加)	△196	230
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△943	203
未収消費税等の増減額 (△は増加)	△589	666

投資CF

ムーミンバレーパーク開発のための支払いが減少。

	2019年9月期	2020年9月期
固定資産の取得による支出	△4,929	△288

財務CF

ムーミンバレーパーク開発にあたり調達した借入を一部返済。

	2019年9月期	2020年9月期
長期借入金による収入	7,054	664
長期借入金の返済による支出	△4,605	△714
リース債務の返済による支出	△135	△215

業績見通し、株主還元

連結業績予想

(単位：百万円)	2020年9月期 実績	2021年9月期 予想値	増減額	増減率
売上高	6,841	9,000	+2,158	+31.6%
営業利益	△992	540	+1,532	—
経常利益	△1,135	370	+1,505	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	△1,186	250	+1,436	—

投資銀行事業の投資とアレンジメントにより、黒字転換を見込む

- ・プライベートエクイティ投資を強化し、高まっている事業承継等へのニーズに対応。アセットマネジメント等の業務受託手数料や投資回収による収益計上を見込む。パブリック・マネジメント・コンサルティングの公会計事業などで取引がある税理士/会計士や金融機関等の当社の取引先のネットワークから、すでに多くの引き合いがあり、これらの案件の収益化を狙う。情報網の拡大等により、更に案件組成を増やし、業績の上積みを狙う。
- ・従来から取り組んできた地方を中心とするアレンジメントについても継続・強化。

メツアは収支均衡を維持

ライセンス事業は好調を維持し、エンタテインメント事業は黒字化

- ・コロナ禍による影響は継続するが、ワクチン開発等により事業環境が徐々に回復することを前提に、業績予想を算出。
- ・メツアはイベントなど集客策を継続するが、来園者数の大きな回復を見込まず、収支均衡策を継続。
- ・ムーミン・ライセンス事業は、ムーミンバレーパーク開業やムーミン展により話題・魅力が広まり、コロナ禍の中でもムーミンの商材等の取り扱いの増加が続いており、この傾向が継続すると見込む。

セグメント別の見通し

投資銀行事業	<ul style="list-style-type: none">・プライベートエクイティ投資を強化。投資回収と業務受託により、大幅な増収増益を見込む。・従前からの企業投資の回収を業績予想値に組み込んでいるが、今後の当該投資先の企業価値が更に向上することが見込まれる場合は、売却時期を再度検討する。・航空機アセットマネジメントは非稼働機体受託などにより、堅調に推移。事業拡大のための人員増強等の先行投資により費用増の見込。
公共コンサルティング事業	<ul style="list-style-type: none">・公会計事業において、大規模自治体を軸に営業活動を展開。・資産管理財政計画システムを開発。2021年からの販売、保守を開始予定。
エンタテインメント・サービス事業	<ul style="list-style-type: none">・メッツァ関連は臨時休園があった前期より売上は伸びるものの、来園者数は大幅には伸びないと考え、費用を抑える収益均衡策を継続。2020年10月のメッツァ来園者数は、前年同月比で若干マイナスだが、回復の兆しが見られる。・ライセンス事業は、緊急事態宣言等による商業施設閉鎖の影響がなくなる。ブランド価値向上も寄与し、増収増益を見込む。

「投資」と「アレンジメント」を成長ドライバーとする

- ・ 企業投資の加速化。
- ・ 事業承継等のニーズに対応したプライベートエクイティ投資の強化
- ・ 経営環境や投資リターンを踏まえた回収(エグジット)の実行
- ・ 地方でのプロジェクトマネジメント及びファイナンスアレンジ業務の積極的推進
- ・ 中小企業のニーズに即した商品の組成
- ・ STO(ブロックチェーン技術を利用した新しい資金調達手法)など新しいイノベーションの推進

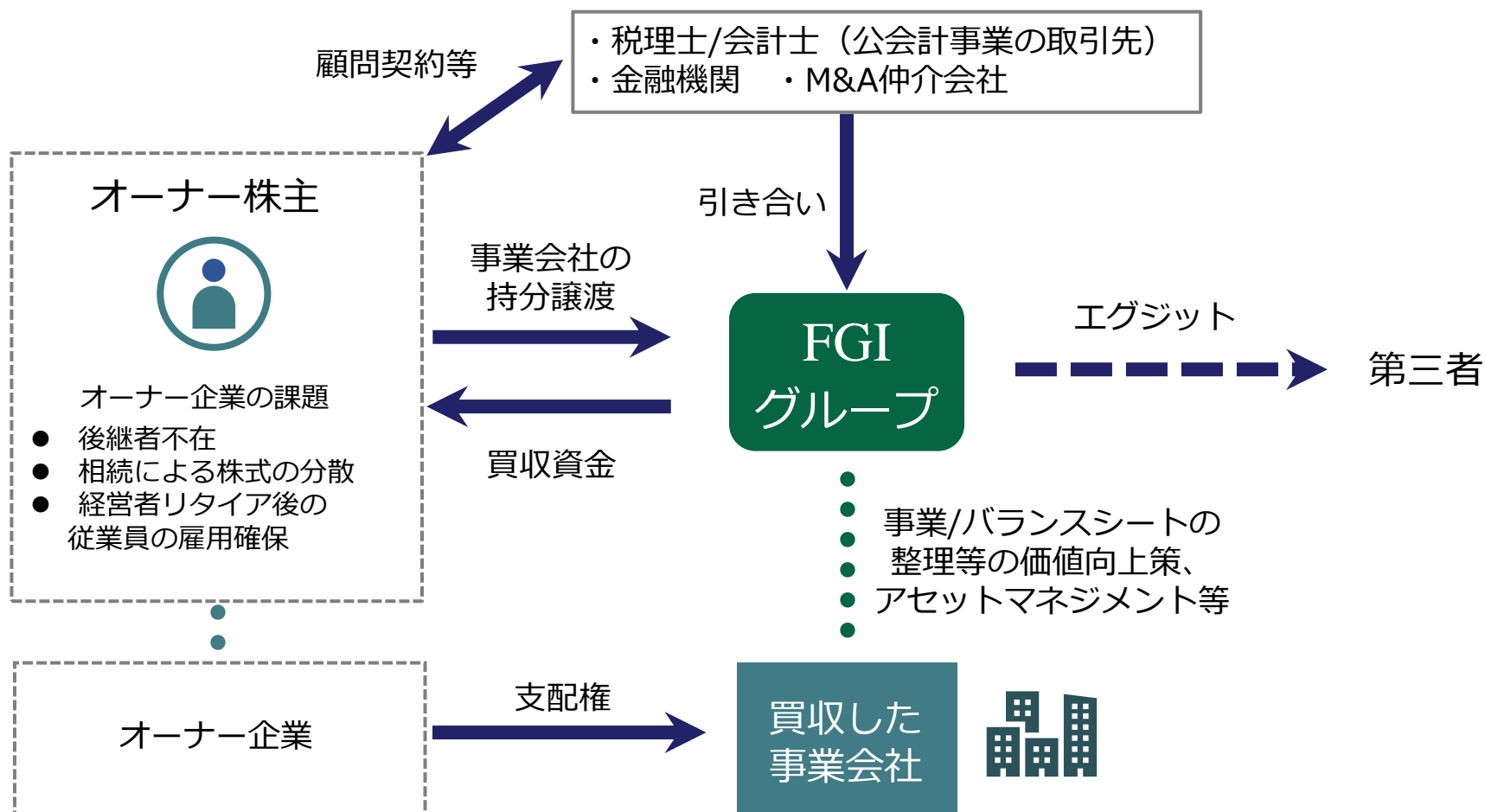


投資

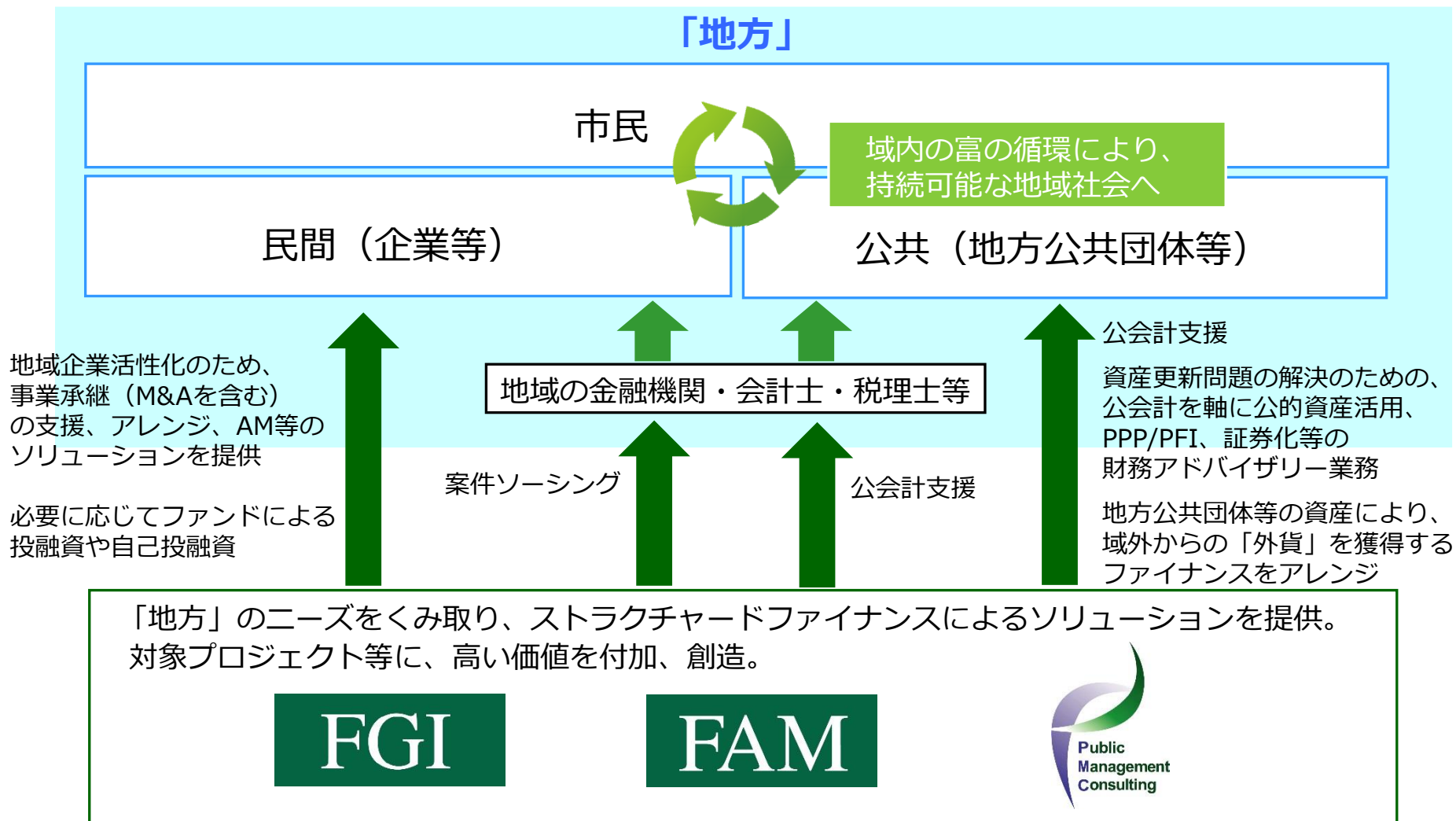
アレンジメント

プライベートエクイティ投資が業績を牽引

公会計事業を行う子会社パブリック・マネジメント・コンサルティングの取引先である会計士や金融機関等、当社グループの既存ネットワークから案件の引き合いを受け、後継者不在等の様々な課題を抱えた企業のオーナー企業の持分をファンドを介して取得。事業整理、管理体制整備等の施策を施したうえでエグジット。なお、投資先については、原則として当社の連結の範囲に含まない方針。



「地方」（民間・公共）に対し、FGIグループ会社が一体化してソリューションを提供。付加価値を創造し、持続可能な地域社会の実現に貢献。



今後のメッツアの取り組み

ムーミンバレーパークで「アドベンチャーウォーク」を開催
感染拡大防止策を徹底した上で、憩いの場を提供

10/31 ~ 12/25
メッツアビレッジのクリスマス2020 ~ 北欧の森とクリスマスマーケット ~



10/31 ~ 12/25 クリスマスマーケット
11/14, 15 ワン!ダブルフェスタ
12/12 ~ 12/20 北欧アートフェア

2020年11月

12月

2021年1月

2月

3月



WINTER WONDERLAND
in MOONIN VALLEY PARK...
11/21 ~ 3/7
ADVENTURE WALK

開催期間中の営業時間

ムーミンバレーパーク

: 10:00 ~ 17:00

アドベンチャーウォーク

: 17:00 ~ 20:00

※アドベンチャーウォークは別途料金



「アドベンチャーウォーク」では宮沢湖の外周ルート全長約1.8kmを使用。
ソニーの新感覚の音響技術Sound AR™を導入し、キャラクターたちの音声など従来では味わえない音の臨場感と、物語の世界観を再現した光の演出による体験型アトラクションを展開。

ゲストは、ソニーが開発したSound AR™を楽しむためのエンタテインメントアプリLocatone™をスマートフォンにダウンロード、イヤホン装着して、『ムーミン谷の冬』の世界観を感じながら特別な体験ができます。

Sound AR™はソニー株式会社の商標です。

Locatone™はソニー株式会社の商標です。

©Moomin Characters™

Copyright© FinTech Global Incorporated

当期配当、次期配当予想

【基本方針】

経営基盤の強化と拡大する事業を迅速かつ確実に捉えるために、十分な内部留保金を維持することに留意しつつ、株主の皆様へ利益を還元することが配当政策上重要であると考え、業績の状況や将来の事業展開などを総合的に勘案して配当することを基本としています。

【当期配当】

配当原資である個別貸借対照表のその他利益剰余金が△4,554百万円となっております。このため、誠に遺憾ではございますが、期末配当は見送りとさせていただきます。

【次期配当】

次期は業績改善に向けた取り組みを進めますが、次期の利益のみで欠損の解消は難しい状況であるため、引き続き無配とさせていただきます。

当社は今後、投資銀行事業におけるプライベートエクイティ投資による収益とアレンジメントを軸に、業績を向上させ財政状態を改善して参ります。メツアについては回収フェーズに入っており、メツア全体のバリューアップを推進していくことで見いだされる(株)ムーミン物語に対する企業投資やメツアビレッジに対するアセット投資に関するエグジット機会を得ることを想定しております。なおメツアに関しては、当社は2018年7月に飯能地域資源利活用合同会社にムーミンバレーパークの不動産を譲渡（譲渡価格2,000百万円、簿価443百万円）しておりますが、当社子会社による当該不動産管理受託や出資など継続的関与があったため、当該取引を金融取引としており、未実現の利益があります。今後(株)ムーミン物語が連結除外される場合には、当該不動産譲渡については売却処理されます。

これらの施策や状況により、現時点においては減資による欠損填補等の資本政策はとらずに、利益配当が可能な財政状態とすることが可能であると判断しております。

株主の皆様には、無配について深くお詫び申し上げますとともに、ご期待にお応えできるよう早期の業績の改善を目指し最善を尽くして参りますので、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

連結経営指標等の推移

		2015年 9月期	2016年 9月期	2017年 9月期	2018年 9月期	2019年 9月期	2020年9月期
売上高	(百万円)	5,429	7,485	7,182	3,689	9,175	6,841
売上総利益	(百万円)	2,495	1,496	1,626	2,261	2,944	2,313
営業利益又は営業損失(△)	(百万円)	115	△ 1,031	△ 1,319	△ 1,072	△ 1,664	△ 992
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	237	△ 1,369	△ 1,341	△ 1,227	△ 1,850	△ 1,135
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	(百万円)	224	△ 1,384	△ 1,358	△ 820	△ 1,586	△ 1,186
純資産	(百万円)	7,879	6,312	5,326	8,551	8,873	7,304
総資産	(百万円)	11,958	10,975	12,932	14,016	19,025	16,583
1株当たり純資産	(円)	48.31	38.66	29.64	39.31	37.03	31.12
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△)	(円)	1.48	△ 8.56	△ 8.39	△ 4.79	△ 8.08	△ 5.90
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	1.47	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	65.4	57.0	37.1	52.2	39.1	37.7
自己資本利益率	(%)	3.4	△ 19.7	△ 24.6	△ 13.5	△ 21.5	△ 17.3
株価収益率	(倍)	84.7	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 1,791	△ 1,305	△ 1,153	△ 2,978	△ 2,604	680
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 644	△ 302	△ 1,026	△ 2,008	△ 4,543	△ 282
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	4,761	△ 751	2,937	5,771	5,710	△ 767
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	4,612	2,240	2,969	3,847	2,513	2,142
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	117(8)	114(20)	143(27)	156(47)	167(262)	156(224)
従業員数(単体) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	38(3)	45(8)	40(6)	38(5)	39(5)	28(6)

フィンテック グローバル株式会社 会社概要

本店所在地	東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア15階		
設立	1994年12月7日		
代表	代表取締役社長 玉井 信光		
上場日	2005年6月8日		
証券コード	8789 (東京証券取引所マザーズ市場)		
事業年度	10月1日から9月30日まで		
事業内容	①投資銀行事業 ②公共コンサルティング事業 ③エンタテインメント・サービス事業		
発行済株式総数	201,114,600株 (2020年9月30日現在)		
単元株式数	100株		
資本金	6,462百万円 (2020年9月30日現在)		
連結純資産	7,304百万円 (2020年9月30日現在)		
大株主 (2020年9月30日現在)	玉井 信光 (株)CAT-MY	10,095,500 10,000,000	(5.02%) (4.97%)
連結従業員数	156名 (2020年9月30日現在、臨時従業員含まず)		

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、フィンテック グローバル株式会社の登録商標であります。

免責条項

本資料は、当社およびFGIグループの2020年9月期決算に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実（以下、「将来情報」ということがあります）の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付（または当該資料・文書に別途明示された日付）時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。